



岡村 定矩 (OKAMURA Sadanori)

東京大学 名誉教授
法政大学理工学部創生科学科 教授

東京大学理学部天文学科卒業、
同大学院理学系研究科天文学専攻修士課程修了、
同博士課程単位取得、理学博士号を取得。

日本学術振興会奨励研究員、東大東京天文台木曾観測所助手、連合王国エジンバラ王立天文台客員研究員、東大東京天文台木曾観測所助教授、東大天文学教育研究センター木曾観測所助教授と国立天文台助教授を併任。その後、東京大学理学部天文学科教授、同大学院理学系研究科教授、理学系研究科長・理学部長、理事・副学長、東京大学国際高等研究所長などを経て、2012年3月定年。2012年4月より現職。

専門は銀河天文学、観測的宇宙論。銀河・銀河団の構造と進化および宇宙構造パラメータに関する観測的研究をしている。主に可視光と近赤外線観測に基づいて、宇宙初期の銀河・銀河団とそれらが織りなす大規模構造を探索し、どのようにしてそれらが現在の姿に進化してきたかを描き出す。誕生時にすでに銀河に付与された性質と、進化の過程で環境によって変成された性質の違いを明らかにする。ハッブル定数など宇宙論パラメータの研究も行う。観測手段としての多様なモザイク CCD カメラと天体画像処理システムの開発も行ってきた。ハワイ島にあるすばる望遠鏡の主焦点広視野カメラ **Suprime-Cam** の開発責任者。

主な著書に、『天文学辞典』(編著、日本評論社)、『宇宙のアルバム』(共著、福音館書店)、『木曾シュミットアトラス』(編著、丸善)、『銀河系と銀河宇宙』(東京大学出版会)、『オックスフォード天文学辞典』(監訳、朝倉書店)、『人類の住む宇宙 (シリーズ現代の天文学 I)』(編著、日本評論社)、『見えない宇宙を観る』(訳書、丸善)、『宇宙はどこまで分かったか』(編著、数ゼミ別冊、日本評論社)、『宇宙観 5000 年史 人類は宇宙をどうみてきたか』(共著、東大出版会)、『理系ジェネラリストへの手引きーいま必要とされる知とリテラシー』(共編著、日本評論社) など。他に論文多数。

日本天文学会欧文報告論文賞を受賞 ('04, '05, '06, '07, '10 年)。